

第3学年C組 国語科学習指導案

授業者 鎌田 佳佑
研究協力者 成田 雅樹、高橋 菜由
教材分析協力者 岡 英里奈

1 単元名 ドラマワークで読み取ろう

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

初発の疑問を基に問いを練り上げていった「まいごのかぎ」の学習で、子どもたちは、作品における「かぎ」や「うさぎ」の意味や主人公の気持ちの変化などに関心をもって学習に取り組んだ。そこで、演劇的な手法により人物や場面の様子を視覚化する活動を取り入れることで、主人公の気持ちを捉えるための手掛かりとなる叙述に着目できるようにした。この取組により、単元の終末では、主人公の気持ちと「かぎ」や「うさぎ」が作品中で果たす役割や意味を関係付けて考える子どもの姿が見られるようになった。

その一方で、取り上げる場面や着目する言葉を焦点化できず、授業のねらいを達成できない子どもも少なからずいた。

これらのことから、演劇的手法の有効性は確認できたものの、その趣旨を学級全体に波及させるには、まだ実践を積み重ねる必要があることが明らかとなった。

また、普段の生活では、友達に自分の考えを言語化して伝えることができずトラブルを起こしてしまう姿や、相手の言葉から気持ちを推し量ることができず、きつい言葉を返してしまう姿も見られる。言葉と気持ちのつながりを意識して生活することができるようにする上で、視覚情報と言葉を関係付けて考える学びの重要性が一層高まっていることを痛感している。

(2) 単元について

本単元の中心教材である「おにたのぼうし」は、中心人物である「おにた」の性格や人となり、鬼としての在り方について葛藤する姿などについて、人物描写を手掛かりにして理解を深めることができる作品である。

具体的な場面の様子が人物の気持ちと密接に関連した人物描写が多様であるため、本単元で学習活動の中軸とする演劇的な手法の効果が最大限に発揮されることも期待できる。

また、何気ない叙述に着目し、一人ひとりの子どもがこだわりをもって解釈することができることから、互いの解釈のずれを顕在化しその要因や背景について考えることを通して個性的な読みを実現していくことを楽しめる可能性も秘めている。

更には、作品の山場に描かれる人物相互の気持ちのすれ違いや悲劇的な結末の意味も、一人ひとり異なる文脈で中心人物の変容を捉えることにつながり、作品の魅力を多様に味わうきっかけとなるだろう。

これらのことから、本作品は、本学級の子どもたちが深い学びを実現するための教材性を十分に有していると言えよう。

(3) 指導について

本単元では、人物描写を手掛かりにしてその気持ちを深く捉える能力の向上を図りたい。作品中の出来事と人物の気持ちを関係付けて読むことにより、一つ一つの表現について立ち止まって考え、その意味を大切に受け止めようとする姿勢とそのための手立てを育むことができるだろう。

演劇的手法の活用においては、ロールプレイは人物相互の関係性を、フリーズフレームでは人物の気持ちに変節する決定的な瞬間の捉えを、ホットシーティングは人物のものの見方や考え方についての潜在的な理解の顕在化を、というように、それぞれの適性を生かしてねらいの達成につながるような指導を心掛けたい。その上で、「まいごのかぎ」で既習の事項について想起する場面を意図的に設けながら、前単元では未発に終わった学びの可能性に気付くことができるような学習活動を、単元の導入において意図的に取り上げたい。この手立てを通して本単元の見通しを明らかにして学び進めることができるだろう。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 場面の展開に即して中心人物の気持ちや行動が変容していくことを捉え、その変容の意味を考えながら読むことができる。〈C-39、41〉
- (2) 人物描写に関わる叙述を基にして、中心人物のものの見方・考え方の特徴や、言動の変化の意味を想像して読むことができる。〈C-41〉
- (3) 叙述を基にして考えたことを、進んで吟味したり、よりよく伝わるように表現しようとする。〈イ〉

4 単元の構想（総時数 9 時間）

まいごのかぎ

物語の展開に即して各場面の様子が変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握し、その様子を想像しながら読む。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1)「まいごのかぎ」を読み、中心人物の心情描写の読み取り方を振り返る。 (2) 単元の見通しをもつ。 ・りいこの気持ちが変わったところを劇にして読み取ったね。	・文章を読解する際、話合いに演劇的手法を取り入れることの有効性を感じられるように、録画した動画を用いて、りいこの気持ちが表れていた叙述について振り返る場を設定する。	・場面の様子が視覚化されていることによって、文章の読解がどのように補われているか、考えながら読む。 〈C-32〉
2 3	(3)「おにたのぼうし」を読み、初読の感想を交流する。 ・おにたは、恥ずかしがり屋なんだな。 ・黒豆が残っていたのはなぜだろう。 (4) 物語を通読してクライマックスはどこか話し合い、学習計画を立てる。 ・おにたの気持ちが大きく変わっているから、おにたの姿が消えて、帽子と黒豆が残った場面だと思う。	・子どもの問いを基に学習計画を立てられるように、疑問に思ったことを感想に書くように指示する。 ・単元を通しておにたの人物像について解釈を深めていけるように、演劇的手法を使っておにたの気持ちや行動の様子を読み進めていくという手立てを提案する。	・物語の展開や内容に着目しながら、初読の感想をまとめている。 〈C-64〉 ・物語の構成を理解し、クライマックスとなる場面とその理由を考えている。 〈C-42〉 ・クライマックスを意識し、叙述を基に問いを立てている。 〈C-45〉
学習問題 おにたは、どのようなおにたになるだろうか。			
4 5	(5) おにたの気持ちや行動の変化を表す叙述を探す。 ・1の場面のおにたは用心して、人に見えないように行動しているね。 ・4の場面のおにたは、女の子のために一生懸命になって姿を現している。	・おにたの場面ごとの変容に着目して読み進めることができるように、おにたの気持ちや行動が表れている叙述を探し、まとめる場面を設定する。	・おにたがどの場面で、どのような言動や行動をしていたのか読み取っている。 〈C-38〉
6 7 本時	(6) 物語中に明記されていないおにたの気持ちや行動の様子について、解釈を交流する。 ・一生懸命になっていたのだから、勢いよくドアを叩いたのではないかな。 ・「トントンとたたいた」って、その動き方でいいのかな。 ・おにたは人間にばれないようにしたいから、ドアを叩く前にたくさん悩んだのではないかな。	・おにたの行動の様子について、自分なりの解釈に気付くことができるように、演劇的手法を用いて表現する場を設ける。 ・個々の子どもたちの解釈を明確に示しながら交流することができるように、複数の演劇的手法を組み合わせる話し合う場を設ける。	・前後の場面について読み取ったことを基に、自分の解釈が伝わるような表現方法を考えている。 〈C-10、43〉 ・おにたの気持ちや行動の様子について、複数の叙述を基にして解釈を検討している。 〈C-39、41〉
8	(7) クライマックスにおけるおにたの行動の意図や意味について話し合う。 ・おにたのことを悪く言われて悲しかったけれど、女の子のために黒豆に変身して消えてしまったのかな。	・これまでに読み取ってきたことを生かして解釈を深めることができるように、おにたの立場でホットシーティングを行い、話し合う場面を設ける。	・クライマックスにおける出来事と、おにたの心情や行動の様子を関係付けながら読んでいく。 〈C-41〉
9	(8) おにたの気持ちや行動の変化をまとめ、本単元の学びを振り返る。	・物語への解釈が深まったことを実感できるように、おにたの気持ちや行動の様子について、読み取ったことを生かしながら人物像をまとめるように指示する。	・おにたの人物像に対し、自分がどのように解釈しているか考えながら学習を振り返っている。 〈C-40〉

◎本単元で育む主な資質・能力

人物描写の特徴から、その人物のものの見方や考え方の特徴や言動の変化の意味を考える。
(C-41)

モチモチの木

登場人物の行動や会話、情景描写の特徴から、登場人物の人物像や作品主題との関連を考える。

5 本時の実際（7／9）

- (1) ねらい 心情や行動が表れている叙述に着目し、文中に明記されていない場面のおにたの様子について演劇的手法を用いて話し合う活動を通して、おにたの気持ちの変化に対する解釈を深めることができる。
〈C-40、41〉

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評 価
6分	① 学習問題を確認する。 —めあて— おにたは、どんな思いで、どのように女の子に会いに行ったのだろう。	・本時の活動に見通しをもつことができるように、演劇的手法を用いた話合いの進め方を示す。
10分	② 第3段落と第4段落の間のおにたの行動の様子について、ロールプレイを用いてグループで話し合う。 (グループ) ・一生懸命になっていたのだから、焦った様子で強く玄関のドアを叩けばよいのではないかな。 ・おにたは用心深い性格なのだから、他の人に見つからないよう、こっそりと玄関の前に行けばよいのではないかな。 ・持って行ったごちそうを、大事そうに持っていたのではないかな。	・本文の叙述に即して表現方法を考えることができるように、おにたの心情や行動の様子が表れている言葉に着目して話し合うことを確認する。 ○おにたの行動の様子について、自分なりの解釈を基に表現することができるように、根拠となる叙述を挙げながら話し合うよう指示する。 ・全体での話合いを活発に行うことができるように、表現の仕方や解釈の異なるグループを見取りつつ、表現の仕方について助言する。
24分	③ 第3段落と第4段落の間でのおにたの行動の様子について、ロールプレイや他の演劇的手法を用いて全体で話し合う。 (グループ・全体) ○【叙述を基に解釈をしている】 ・〇〇さんは焦りながら強く玄関のドアを叩いたけど、「トントン」という言葉があるから、おにたは慎重に叩いたのではないかな。 ・〇〇さんは慎重に歩いてたけど、「飛び出した」という言葉があるから、おにたはもっと必死な顔でごちそうを準備しにいったのではないかな。 ○【叙述を基に、明記されていないおにたの様子を表現しようとしている】 ・これまで人前に姿を見せようとしなかったんだから、玄関のドアを叩く前に、しばらく悩んだのではないかな。 ・おにたはごちそうを渡すとき、スムーズには渡せなかったのではないかな。 △【叙述からおにたの様子を考えられない】 ・おにたは女の子にごちそうを渡せたんだから、にっこり笑顔で女の子と向かい合ってたのではないかな。	○それぞれの子どもの解釈を交流することができるように、友達の行ったロールプレイについて、必要に応じてホットシーティングやフリーズ・フレームを組み合わせ、その表現の意図を確かめたり、質問したりする場を設定する。 ・おにたの気持ちや行動の様子について解釈を深めることができるように、解釈が異なっていた子どもに質問を促したり、全体に問いかけたりする。 ・おにたの行動の様子について、叙述から想像しづらい子どもに対しては、第3段落・第4段落のおにたがおにたであることを明かさない理由について問いかけ、おにたの気持ちをより具体的に考えられるようにする。
5分	④ 本時の話合いから考えたことをノートにまとめる。 ・おにたは恥ずかしがり、人前に姿を見せようとしていなかったことは分かっていたけど、友達の演技を見ると、女の子のためにがんばっていたことが分かった。 ・自分が想像している読み方と、友達の読み方は違ったけど、そういう読み方もできるのかと思った。	・話合いを通して深まった解釈をノートにまとめられるように、振り返りの視点を示す。 おにたの気持ちや行動の様子について、話合いを通して解釈を深めている。 〈C-40、41〉（発言・振り返り）

令和7年度 国語科実践・研究計画

部 員 ○工藤優花、鎌田佳佑、小室真紀

1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践から、本校の国語科教育における自律した学習者の具体が見えてきた。

- ① 1年「オリジナルじどう車カードゲームであそぼう～じどう車しらべ～」の実践では、教材文を読み進めていくうちに、ある子どもから「自分が好きな自動車のことを調べたい」という声が上がった。この発言から、「好きな自動車のカードを作り、そのつくりとはたらきを並べて説明するゲームで遊ぶ」という学習のめあてが生まれた。

救急車を選んで調べた子どもは、はじめは明確な基準を設けずに並べていたが、ゲームによって友達との交流を行う中で、「その車が仕事をするのにより必要なつくりから順番に並べると説明がよく伝わる」ということを理解し、筆者の文章構成の意図を考えている姿が見られた。子どもたちにとって関心が高いカードゲームを言語活動に設定したことで、意欲をもって学習に取り組める場を設けることができたと考える。

子どもたちの活動に対する意欲を支えていたのは、「選んだ題材を追究することができ、成果物で遊びながら交流できること」という目的意識であったと考えられる。

- ② 5年「見つめよう 物語の中の『友達』」の実践で「にじの見える橋」を読んだ子どもは、「自分も友達や家族との関係がうまくいかず、もやもやしたことがあって、主人公の気持ちがわかる」と感想を述べ、人間関係に思い悩んだ時の自分の心情と、主人公の心情を重ねていた。登場人物の心情を自分なりに解釈し、本文の叙述を何度も読み返しながら、その根拠を一生懸命に探そうとしていた。

この単元では、子どもたちに「友達との出会い」や「すれ違い」をテーマとして集めた5つの物語文を提示した。その後、「心に残った物語を1つ選び、本文中に描かれていない登場人物の心情が分かるように物語をリライトする」という活動を行った。物語をリライトする場面では、共感を覚えた登場人物になり切りつつ、本文から読み取った登場人物の心情をありありと描き出そうとしている姿が見られた。

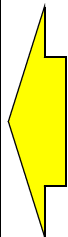
一方、本文をあまり読み返さずに、初めに読んだ時点の解釈で満足しているような子どもの姿も見られた。自身の解釈にこだわりをもち、さらに深く吟味していけるような場を設けられるようにしていきたい。

- ③ 6年「書きたい世界が広がる『作家の時間』」の実践では、説明文を書き進めているA児が、自分の作文を紹介しながら「逆接が3回並ぶのは変じゃないだろうか」と学級全体に悩みを投げかけた。様々な代案が挙がり、小グループに分かれてそれぞれの案を試していると、B児が「この文章では、逆接の後の文を強調したいんだよね。こんな表現に変えたらどう」と、代案を示した。他の子どもから拍手が起こる中、A児は「言いたいのは、確かに逆接の後なんだよなあ」とつぶやいた。後日A児は、B児の案を受け入れたことを学級の人々に伝えた。二人のやりとりをきっかけに、他の子どもたちは、「接続語によって、読み手が受ける印象が異なる」、「書き手でありつつ、読み手としても文を見直す必要がある」ということを感じた様子だった。

「他の表現はないだろうか」と反芻する問いかけや、友達からの問いかけ、友達とのやりとりから浮かび上がる自分への問いかけのように、それぞれの子どもたちに小さな問いかけが重なっていく場面があったことが、気づきを生み出し、書きながら何度も考え、再び考え直す創造的な学びの土台をつくることにつながっていたと考える。

2 国語科における自律した学習者の姿

- ① 自分に適した学びの道筋を選択し、進んで学びに向かいながら、言葉の力を高めている姿
② 根拠を基に自らの解釈や表現を吟味し、よりよいものにしていく姿
③ 問いの積み重ねを基に、言葉に関する選択・決定を省察する姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 個々の子どもに応じた学習材の提示や学習展開の工夫ができるように、授業の内外で子どもの姿を的確に見取る。
○自らの解釈や表現に対して、その解釈・表現に至った根拠をもって学びに向かうことができるような学習活動の工夫をする。
○自身の振り返りや、仲間と関わって得たことを基に、自分の考えはどのように変わったのか、問い直す場を設ける。

令和7年度「国語科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容			1年	2年	3年	4年	5年	6年
			1・2年	3・4年	5・6年						
国語科の学びに向かう力、人間性等	ア	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■
	イ	よりよい話し方、聞き方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。	A	A	A	■	■	■	■	■	■
	ウ	自分の思いを書いて伝えることのよさを見付けたり楽しさを感じたりしながら、進んで書こうとする。	B	B	B	■	■	■	■	■	■
	エ	書かれている事柄の順序や文章の構成、場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして読もうとしている。	C	C	C	■	■	■	■	■	■
	オ	表現したり理解したりするために、必要な語句を進んで増やそうとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■

国語科の各領域の付けたい力 A話すこと・聞くこと	1	場に応じて、適切な声量や速さで、はっきりとした発音で話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	■	■	■	■	■	■
	2	結論を先に、理由を後につけて発言する。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	3	身近な出来事について、適切な長さでスピーチをする。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	4	相手との関係や、その場の状況に応じた言葉遣いで話す。	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	□	□	□	■	■	■
	5	頷きや眼差しなどで相手に反応を示しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	■	■	■	■	■	■
	6	話の内容を落とさず、間違いなく聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	7	話の中心点を理解して聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	8	身近なことや、自分が経験したこと、観察したことなどの中から話題を決める。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	9	日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うことなどから話題を決める。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	10	学校や家庭、地域のことなどで興味や関心をもっている事柄を想起し、一つの話題に絞る。			A(1)ア					□	■
	11	話すために必要な事柄を思い出して書き出す。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	12	本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真などを見るなどの方法から選択し、調べたことの要点をメモする。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	13	取材した内容を比較したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かす。			A(1)ア					□	■
	14	相手の話に対する賛否を明確に表す。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	■	■	■	■	■	■
	15	相手の話に口を挟まずに聞く。	A(1)エ	A(1)エ、知(1)イ	A(1)エ、知(1)イ	■	■	■	■	■	■
	16	丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。	知(1)キ	知(1)キ	知(1)キ	□	■	■	■	■	■
	17	起こった事柄の順序にしたがって話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	18	分かったこと、考えたことについて、筋道を立てて話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	19	大事な事柄から話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	20	聞き逃したことを問い返したり、不明確な点や確かめたいことを問いただしたりする。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	■	■	■	■	■
	21	図表や映像を提示したり、身振りや手振りで内容を補ったりして話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	□	□	■	■	■	■
	22	複数の事柄を比較しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	23	必要な情報を選んで聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ		□	■	■	■	■
	24	話し合ったことを基に、自分の問題意識を深めたり、焦点化したりする。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	□	□	■	■	■	■
	25	聞いたことを正確に再現して話す。	A(1)アイ	A(1)アイ	A(1)アイ	□	□	□	■	■	■

	26	伝えたい内容や気持ち、その場の状況に合わせて、大事な言葉を強調したり繰り返したりするなど工夫して話す。	A(1)イウ	A(1)イウ	A(1)イウ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	27	尋ねたいことを見付けて質問したり、質問に答えたりする。	A(1)エ, オ	A(1)エ, オ	A(1)エ, オ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	28	見聞きしたり、読んだりしたことについて、考えたことを話し合う。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	29	話題に即した話をする。	A(1)イオ	A(1)イオ	A(1)イオ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	30	話を聞きながらその内容を記号や省略、矢印などを使って工夫してメモし、相手の主張や論理を整理してとらえる。		A(1)ア	A(1)ア			☐	☐	☒	☒
	31	定められた時間内に話す。		A(1)エ	A(1)エ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
	32	問題に適した話合いの内容・方法・相手等を決める(選ぶ)。		A(1)オ	A(1)オ			☐	☐	☒	☒
	33	内容を選び、主旨を明確にして話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☒	☒
	34	相手の話を引用しながら話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☒	☒
	35	資料や事実に基づいて、具体的に話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	☐	☐	☐	☐	☒	☒
	36	メモを基にして話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☒	☒
	37	相手や目的に応じ、筋道を立てて適切な言葉遣いで話す。		A(1)イウ, 知(1)キ	A(1)イウ, 知(1)キ			☐	☐	☒	☒
	38	自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、概説したり、結論付けたりして、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。			A(1)イ					☐	☒
	39	事柄が明確に伝わるように、必要な文言や数値などを引用したり、図解したり、重要語句の定義付けをしたりするなどの工夫をする。			A(1)ウ					☐	☒
	40	相手の話の内容と自分の考えとの異同を確かめながら聞く。		A(1)エ	A(1)エ				☐	☒	☒
	41	話し手の意図を推し量りながら聞く。		A(1)エ	A(1)エ			☐	☐	☒	☒
	42	自分の考えと関連する点を探しながら話を聞く。			A(1)エ					☐	☒
	43	主張されていることの根拠が妥当かどうか、信憑性があるかどうか考えながら聞く。			A(1)エ					☐	☒
	44	聞き手の反応をうかがいながら話す。			A(1)ウ					☐	☒
	45	互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	46	話合いの流れを的確に把握し、臨機応変に話題を広げたり深めたりする発言をする。			A(1)オ					☐	☒
	47	話合いの意義や成果をまとめて話す。		A(1)イ	A(1)イ			☐	☐	☐	☒
	48	相手の意見の不適切な点や、不備な点を指摘したり、補ったりしながら話し合う。			A(1)オ					☐	☒
	49	相手の反応を先取りした上で、自分の考えを話す。			A(1)ウ					☐	☒
	50	相手に分かりやすい順序を工夫して話す。		A(1)イ	A(1)イ				☐	☐	☒
国語科の 各領域の 付けたい力 B 書くこと	1	履修した漢字を書く。(平仮名、片仮名も意識して)	伝(1)ウ(ア) (イ)	伝(1)ウ(ア) (イ)	伝(1)ウ(ア) (イ)	☒	☒	☒	☒	☒	☒
	2	主述が明確な文を書く。	B(1)イ, 伝(1)イ(カ)	B(1)イ	B(1)イ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
	3	原稿用紙を正しく使って文章を書く。	B(1)イ, 伝(1)イ(エ)	B(1)イ, 伝(1)イ(オ)	B(1)イ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	4	読んだり、聞いたり、体験したりしたことの感想を、適切な長さで書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
	5	読んだり、聞いたりした通りに正しく書き写す。	B(1)イ	B(1)イ	B(1)イ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
	6	誤字・脱字に注意し、形を整えて文字を書く。	伝(1)イ(エ) (オ)	伝(1)イ(ウ) (エ)	伝(1)イ(ウ) ウ(ア)	☒	☒	☒	☒	☒	☒
	7	書くための素材を、五感を働かせて日常の言語生活の中から見つける。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	8	見聞きした出来事や経験したこと、想像を膨らませて考えたことなどから書くことを決める。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	9	書くために必要な事柄を書き出し、伝えたい内容に必要な事柄かどうかを確かめながら書く。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
	10	書くために必要な資料に見当をつけ、学習計画を立てたり見直したりする。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	☐	☐	☐	☒	☒	☒
	11	大事な事柄から順に、構成を工夫して書く。	B(1)イ	B(1)イ, 伝(1)イ	B(1)イ, 伝(1)イ	☐	☐	☐	☒	☒	☒

	12	興味・関心のあること、経験したり人から聞いたりしたこと、本を読んで知ったことなどから自分なりに関心を深めて、書くことを決める。		B(1)ア	B(1)ア			☐	■	■	■
	13	知識を得たり考えを深めたりするためのもの、意見の理由となるものや事例など、書くために必要なことを取材する。		B(1)ア	B(1)ア			☐	■	■	■
	14	いくつかのことを比較したり関係付けたりしながら課題意識を明確にして書くことを決める。			B(1)ア					☐	■
	15	情報検索したり取材したりした事柄を、文章の構成や記述に役立つように整理する。			B(1)ア					☐	■
	16	取材したことの順序に沿いながら、「始め—中—終わり」の構成を意識して内容のまとまりごとにいくつかに分けて配列する。	B(1)イ	B(1)イ	B(1)イ	☐	■	■	■	■	■
	17	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係に注意して文章を構成する。		B(1)イ、 伝(1)イ(エ)	B(1)イ			☐	■	■	■
	18	「冒頭部—展開部—終結部」の各部分での段落の役割を意識する。		B(1)イ、 伝(1)イ(エ)	B(1)イ、 伝(1)イ(エ)			☐	■	■	■
	19	物語や説明的な文章の典型構成を知り、それらを目的や意図に応じて効果的に用いて、自分の考え及び相手の理解が明確になるように文章を構成する。			B(1)イ、 伝(1)イ(キ)					☐	■
	20	体験したり調べたりしたことの順序が分かるように書く。	B(1)イ	B (1) イ 伝 (1) イ	B(1)イ	☐	■	■	■	■	■
	21	体験したときの様子や、調べた内容が分かりやすく伝わるように、五感を働かせて詳しく書く。	B(1)アイ	B (1) アイ、 伝 (1) イ	B (1) アイ、 言 (1) イ	☐	☐	■	■	■	■
	22	調べたことから大事な箇所を引用して書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)エ		☐	■	■	■	■
	23	読んだり聞いたりしたことについて、自分の考えをまとめて書くことにより、自分の課題意識を明確に文章にする。	B(1)イ	B(1)イウ	B(1)イウ		☐	■	■	■	■
	24	前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えて書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	☐	■	■	■	■	■
	25	離れたところにある語と語や文と文の関係を考えてつながりのある文章を書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	☐	■	■	■	■	■
	26	調べたことを要約して書く。		B (1) ア、 C (1) エ	B (1) ア、 C (1) ウ			☐	■	■	■
	27	「なぜかという～」「その理由は～」「～のためである」などの表現を用いて、中心の内容や段落に対して、原因や理由を挙げたり、分かりやすく説明するために事例を挙げて書く。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			☐	■	■	■
	28	「例えば～」「事例を挙げると～」「～などが当たる」などの表現を用いて、実例を挙げたり、具体的な本や文章、絵、写真などの事物を取り上げたりして描写や説明をする。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			☐	■	■	■
	29	相手や目的に応じて、敬体と常体を意識的に使い分けたり、「～だ」「～である」「です」「ます」などの文末表現に気を付けて書く。		B(1)エ	B(1)ウエ			☐	■	■	■
	30	伝えたいことが分かるように、何かに例えたり、具体的事例を挙げたりして書く。	B(1)ウ	B(1)ウエ	B(1)ウエ	☐	☐	☐	☐	■	■
	31	事実と意見、原因と結果を明確にして論理的な文章を書く。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			☐	☐	■	■
	32	図表やグラフ、写真等を用いて、自分の文章を補足しながら書く。			B(1)ウエ				☐	☐	■
	33	「事実」(出来事や科学的な事実、物語で描写されるフィクションの世界など)と自分の感想、意見を区別し、目的や意図に応じて詳しく書いたり簡単に書いたりする。			B(1)ウエ					☐	■
	34	自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする際に、本や文章から必要な語句や文を引用して自分の表現に取り入れる。			B(1)ウエ					☐	■
	35	自分の文章を読み返したり、友達の文章を読んだりすることによって、自分の文章を推敲する。	B(1)エ	B(1)オ	B(1)エ	☐	☐	☐	■	■	■
	36	数量や規模を明示したり、重要な言葉を引用したりしながら、説得力のある文章を書く。		B(1)アイ	B(1)アイ エ			☐	☐	■	■
	37	自分や友達の学びの成果が、次の学習に生かされるように、視点を明確にした具体的なふり返りを書く。	B(1)エ	B(1)オ	B(1)オ		☐	☐	☐	■	■
	38	自分の気持ちがよりよく伝わるように、適切な内容及び言葉(敬語・時候の挨拶など)を選んで手紙やメッセージを書く。	B (1) ア、 伝 (1) イ	B (1) アウエ、 伝 (1)	B (1) アウ、 伝 (1) イ		☐	☐	☐	■	■
	39	自分の考えを伝えるのに最も適した語句や文種、表現技法を選択し、その特長を生かしながら書く。		B(1)ア	B (1) ア、 伝 (1) イ			☐	☐	☐	■
	40	書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合う。	B(1)オ	B(1)カ	B(1)カ	☐	■	■	■	■	■
	41	書いたものを読み合ったり音読し合ったりして発表し合い、考えの明確さや書き方の巧みさなどについて意見を述べ合う。		B(1)カ	B(1)カ			☐	■	■	■
	42	書いたものを発表し合って交流し自分の考えをもつとともに、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。			B(1)カ					☐	■
国語科の 各領域の 付けたい力 C 読むこと	1	スラスラと適切な速さと声量で音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
	2	当該学年までの履修済みの漢字をすべて読む。	知(1)エ	知(1)エ	知(1)エ	■	■	■	■	■	■
	3	書かれてある事柄の順序が分かる。	C(1)ア			■	■	■	■	■	■
	4	週に1冊は読書をする習慣を身に付ける。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	☐	☐	■	■	■	■
	5	言葉の意味を辞書で調べ、文脈に即して理解する。		知(2)イ	知(2)イ	☐	☐	☐	■	■	■
	6	文章中の言葉を根拠にしなが、人物の行動の様子やその意味を考えたり、気持ちを想像したりする。	C(1)エ	C (1)エ	C(1)エ	☐	■	■	■	■	■
	7	明瞭な発音で音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■

	8	ひとまとまりの語や文として音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
	9	言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	■	■	■	■	■
	10	強弱や間の取り方、抑揚の付け方などに注意して、読み取ったことがよりよく伝わるように音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	□	■	■	■	■
	11	文章全体の内容や構成からその中心を把握し、軽重や速さなどを考えて音読する。		知(1)ク	知(1)ク			□	■	■	■
	12	七音五音を中心としたリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	□	□	□	■	■	■
	13	語り手や登場人物の人物像をとらえ、どのように語りたいかを決め、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読する。		知(1)ク	知(1)ク				□	■	■
	14	文章全体に対する思いや考えをまとめ、そのことを相手に分かってもらえるように表現性を高めて朗読する。			知(1)ク					□	■
	15	目的に応じて、「比べ読み」「速読」「摘読」「多読」など多様な読み方を選択し、活用する。			知(1)ク					□	■
	16	書かれている事柄の違いを比較することで、その意味が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	17	説明されている事柄の位置関係や構造を、図示したりしながら正確に理解する。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	18	事柄の原因と結果の関係が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	19	話の筋や論理の展開が分かる。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	■	■	■	■	■
	20	書かれていることの特異性と一般性、具体性と抽象性の類別をして、文章の構造や内容を理解する。		C(1)ウ	C(1)ウ		□	□	■	■	■
	21	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の大体を読む。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	22	「問い」と「答え」という基本構成をとらえ、「問い」に対する「答え」を読み取る。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	■	■	■	■	■	■
	23	「始め」「中」「終わり」の文章構成をとらえ、中心となる文を手がかりに要点をまとめる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア		□	□	■	■	■
	24	「序論」「本論」「結論」の三部構成をとらえ、中心となる段落を手がかりに文章の要旨をとらえる。		C(1)ア	C(1)ア				□	□	■
	25	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係をとらえながら読む。		C(1)ア	C(1)ア			□	■	■	■
	26	中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	■	■	■
	27	筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているかをとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
	28	事実を説明している言葉の指し示す範囲に揺れがないかどうか考える。		C(1)アウ	C(1)アウ				□	□	■
	29	文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方、巧みな叙述などに注意して、求められている分量や表現の仕方に合わせて要旨をとらえる。			C(1)ア					□	■
	30	筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験、考えたことと関係付け、自分の考えを明確にしながら読む。			C(1)アオ					□	■
	31	文章構成を区分することによって、文章の要旨や主題を的確にとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
	32	図表や、絵、写真等が、どのように文章を補っているかを考えながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	□	■	■
	33	筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながら読む。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	□	□	□	■	■
	34	筆者の主張の根拠が適切かどうか考えながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	■
	35	結論と具体的事例の整合性を判断しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	■
	36	筆者の推論や解釈、例示などの妥当性を吟味しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	□
	37	物語に共感し、書かれていることの真偽や善悪、美醜、有用・無用の判断をしながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
	38	事柄や人物の設定(誰が・いつ・どこで・何をした)が分かる。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
	39	物語の展開に即して各場面の様子が変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握し、その様子を想像しながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	□	■	■	■	■	■
	40	登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、それらの人物像を読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	■	■	■
	41	人物描写の特徴から、その人物のものの見方や考え方の特徴や言動の変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
	42	物語のクライマックスを見つけ、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	■	■	■
	43	各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
	44	物語や詩の描写を、想像力を働かせながら読む。		C(1)エ	C(1)エ			□	■	■	■
	45	書かれていることを基に問いをつくり、答えを仮定したり根拠となる言葉を探したりする。		C(1)イエ	C(1)イエ		□	□	■	■	■

46	題名や見出しから、文章の要旨や主題を推察する。		C(1)イエ	(1)イエ			☐	☐	☒	☒
47	情景描写の特徴から、作品主題との関連や人物のものの見方や考え方のありようを考える。		C(1)イエ	C(1)イエ			☐	☐	☒	☒
48	一つ一つの事件・出来事の関連性から見出される意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ				☐	☐	☒
49	ストーリーの展開に気を付け、描写の特徴や言葉の象徴性など、読み取ったことがより豊かに伝わるように朗読する。		知(1)ク	知(1)ク				☐	☐	☒
50	登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている心情を読む。			C(1)エ					☐	☒
51	句読点の打ち方の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
52	反復が強調している事柄の意味が分かる。			知(1)ク	☐	☒	☒	☒	☒	☒
53	助詞や助動詞の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
54	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割が分かる。	知(1)カ	知(1)カ	知(1)カ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
55	文末表現によって文の意味合いが変わってくることが分かる。	C(1)イウ	C(1)イウ	C(1)イウ	☐	☐	☐	☒	☒	☒
56	漢字・ひらがな・カタカナなどの表記の違いによって、多義的になったり、意味が限定されたりすることに気付く。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
57	オノマトペ(擬声語・擬態語等)の表現によって強調される意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
58	比喩表現(直喩・隠喩・擬人法等)によって強調されている意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)ク		☒	☒	☒	☒	☒
59	省略、倒置、対句など、構成上の表現の工夫によって強調される意味・内容があることが分かる。			知(1)ク			☐	☐	☒	☒
60	使われている語彙・表現の多義性や象徴性を考える。			知(1)オ					☐	☒
61	象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に生かしたりする。			C(1)オ					☐	☒
62	自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文を適切に書き抜く。	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	☐	☒	☒	☒	☒	☒
63	自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意して読み、引用したり要約したりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			☐	☒	☒	☒
64	感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して、自分の考えを感想文や解説文などにまとめる。			C(1)カ					☐	☒
65	文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ発表し合い、交流する。(劇、話し言葉による発表・交流、書き言葉で表したものを読み合う)	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
66	楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	☒	☒	☒	☒	☒	☒
67	身近な生活や自身の問題意識に基づいて選択する図書の分野を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	☐	☐	☒	☒	☒	☒
68	複数の読み物の内容から、共通点や違いを見つけながら読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	☐	☐	☐	☐	☒	☒
69	筆者や作者、ジャンルなどの関連を意識して、読書の幅を広げ、進んで読書しようとする。		知(3)エ	知(3)エ			☐	☐	☒	☒
70	同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ筆者の複数の本や文章を選んで、読み比べる。			知(3)エ				☐	☐	☒
71	見出し・記事・写真の一貫性や「逆三角形の構成」など、編集の仕方や記事の書き方などに注意して新聞を読む。		C(1)ア	C(1)ア				☐	☐	☒
72	昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	☐	☒	☒	☒	☒	☒
73	優しい文語調の短歌・俳句について情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。		知(3)ア	知(3)ア			☐	☒	☒	☒
74	ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る。		知(3)イ	知(3)イ			☐	☒	☒	☒
75	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。			知(3)アイ					☐	☒
76	古典の解釈文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。			知(3)イ					☐	☒

＜国語科の学びを支える「見方・考え方」＞

a 自分が伝えようとしている内容と言葉の関係に着目し、最も適した語句や表現技法を選び、その特長を活かして表現する。

b 語句の関係や表現技法の差異に着目し、文や文章表現の意味を豊かに、かつ具体的に理解する。

＜領域の学びを深める「見方・考え方」＞

話すこと c 音声の使い方、言葉や文末表現、表情などに着目して、その場に最も適切な表現を考える。

聞くこと d 相手の伝えようとする話の内容に着目して、自分の考えと比べるなどして共通点や相違点、関連などを整理しながら考えをまとめる。

書くこと e 目的や意図に応じた表現や文章構成になっているか、読み手の立場から、相手が読んで理解しやすいか考える。

読むこと f 構成や叙述に着目し、言葉や文を関係付けながら読む。